こころの言の葉

～第17集　大切なあなたに伝えたい、私の思い～

令和元年度「こころの言の葉」コンクール作品集　鹿児島市教育委員会 編

はじめに

鹿児島市教育委員会教育長　杉元　羊一

本年度の「こころの言の葉」作品集が出来上がりました。皆様にお届けできることを大変うれしく思います。これは、「鹿児島市の教育を考える市民会議」の提言を受け、平成十五年度から実施されているものです。これまで、「こころの言の葉」コンクール及び作品集には、各方面から大きな反響をいただいており、今回で十七回目を迎えました。

本事業には、面と向かっては恥ずかしくてなかなか言えないようなことを一枚のはがきに託し、中学生とその親の心の交流を図り、お互いの存在について考えを深め合うという趣旨があります。今年も数多くの「言の葉」が寄せられ、その数は一万六千五百三十三点。また、親の部の応募も八年連続千点を超え、「こころの言の葉」への関心の高さと、本事業の趣旨である、親と子の心の交流が図られていることをうかがうことができました。さらに、八月にはＦＭ鹿児島の生放送番組「朝ＣＡＦＥ」で三十年度の入賞作品が朗読され、今年度もより多くの市民の皆様に親しまれる機会に恵まれたことを大変うれしく感じています。

この作品集には、中学生とその親が、お互いに向けて宛てた四十五編のメッセージが掲載されています。心からの感謝を素直に伝える言葉。不安で揺れる思いを正直に表現した言葉。遠慮がちに、自分のささやかな願いをつぶやく言葉。反抗期の自分を持て余しながら不満と感謝の気持ちをそっと打ち明ける言葉。我が子の反抗期に戸惑いながらも大きな心で受け止める言葉……。一つ一つの言の葉が、読む者の心を揺さぶります。御家族皆様でこの作品集に触れ、親や子としての在り方について考える契機としていただければ幸いです。

最後に、素晴らしい「こころの言の葉」を寄せてくださった全ての皆様に心から感謝申し上げます。

令和二年一月

目次

「思いを伝える」言の葉
―子から親へ―

反抗期の父へ …… 4
かけがえのない時間 …… 5
かわいい妹に。 …… 6
初めて見た母の涙 …… 7
お母さんと私の大切な時間 …… 8
魔法の手 …… 9
私の父 …… 10
母は短気 …… 11
努力の証 …… 12
母のメモ帳 …… 13

「思いをつなげる」言の葉
―親から子へ―

塩辛い唐揚げ …… 15
夢に向かって …… 16
留学で飛び立った娘へ …… 17
うざいくらいに …… 18
帰り道 …… 19
さすがに　もう…… …… 20
変わらないもの …… 21
反抗期感謝 …… 22
やっぱり、まだかわいい …… 23
背中 …… 24
親の本心 …… 25

「思いを交える」言の葉
―子から親へ―

父の背中 …… 27
たくさん時間がかかった …… 27
いつもの曲がり角 …… 28
私と母 …… 28
言葉の力 …… 29
みそ汁 …… 29
言えない言葉 …… 30
わがまま …… 30
父との時間 …… 31
産んでくれて、ありがとう …… 31
一日一家事 …… 32
母の愛情 …… 32
いつもありがとう …… 33

「思いを重ねる」言の葉
―親から子へ―

いつしかあなたに支えられていた私 …… 35
「行ってらっしゃい」のお守り …… 35
「微妙な距離でまた歩こう」 …… 36
頼もしいあなたへ …… 36
あいだの時間 …… 37
ちょっと前まで …… 37
ありがとう …… 38
生まれてきてくれてありがとう …… 38
優しいあなたへ …… 39
おはよ …… 39
成長 …… 40

令和元年度「こころの言の葉」コンクール入賞者一覧 …… 41
令和元年度「こころの言の葉」コンクール表彰式 …… 42
審査員講評 …… 43
編集後記 …… 44

「思いを伝える」言の葉

―子から親へ―

反抗期（はんこうき）の父へ

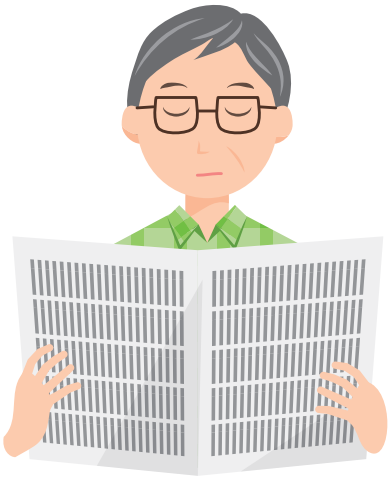
いつも急にふきげんになって、しゃべらなくなるお父さん。

いつも母と私は、

「また、お父さん反抗期だね。」

と言っているよ。きげんのいいときと悪いときの波が激しすぎて、正直母と私はまいっているよ。普通にしてほしいなと、いつも思っているよ。お金をくれるとか、物を買ってくれるとかじゃなくて、私はただ普通（ふつう）にしゃべりたいな。たわいもない会話をしたいよ。だから、急にふきげんになったりしないでね。

今度一緒（いっしょ）にご飯でも作りませんか。



かけがえのない時間

シスコン、ファザコン、マザコン。皆によく言われるけど、何が悪いんだろう。家族とすごく仲がよくて、大好きなことって、中二にもなったら、「キモい」ことなの？ママ・パパ呼びも直さないとだめかなあ。

ママ、パパ、私はうちに産まれて、本当に幸せです。ありきたりなセリフだけど、本当にそう思っています。何かおいしいものを食べたり、おもしろいテレビを見たりしたら家族皆で共有したいし、お祭りもプールも花火も、四人の方が楽しい。気持ち悪い、変、もしそう言われても、私は胸を張って、パパ、ママ、萌花、そしてビビのことが大好きだと言えるよ。四人と一匹（いっぴき）で一つのソファに寝転（ねころ）がってテレビを見る時間が大好きです。私も、こんな家庭を築ける親になりたい。

かわいい妹に。

「中学生って怖(こわ)い。」と小学生のとき、思っていた。妹から見た私は、怖い存在なのだろう。お母さんには、反抗(はんこう)するくせに、私の言うことは聞く。やさしくしたいのに、疲(つか)れが勝(まさ)り、いつも怖い姉でごめんね。前まであんなに仲がよかったのに、厚い壁(かべ)があるみたい。姉ちゃん、頑張(がんば)るから。やさしい姉になれるよう。だから、どうか、待っていてください。どうか、キライにならないでください。たくさん話を聞いてあげたい。やさしい妹に。かわいい妹に。

初めて見た母の涙（なみだ）

お母さんは泣かなくて強い人だと私は今まで思っていた。お母さんが一度だけ私の前で泣いたことがあった。私は友達関係がうまくいかず、親友だと思っていた子とも仲が悪くなってしまった。夜おそくに帰宅して事情を話すと、「ゴメンネ。」と最初に言われた。なぜだろうと思っていると、「気付けなくてゴメン、何もしてやれなくてゴメン。」と言った。そしてお母さんは、私の心の傷をいやすかのように優しく包みこんでくれた。あのとき、母が流した涙と優しいぬくもりは忘れることができない。母は強くはない。強く見せているだけなんだと初めて気付いた。

お母さんと私の大切な時間

私は最近楽しみにしていることがある。それは、夜寝(ね)る前にふとんの上でお母さんと話すことだ。お母さんは、いつも仕事がいそがしくて夜に家に帰ってからも仕事をしている。でもお母さんは、どんなにつかれているときでも必ず私と寝る前に話してくれる。友達のことを話したり、テストのことを話したり、いつも笑いながら聞いてくれる。そんなお母さんが私は大好きだ。たまにお母さんが「夜ごはんとか作ったり、いっしょに食べたりしてあげられなくてごめんね。」と言う時がある。私は、それを聞くたびに胸が痛くなる。私は、今のままで充分(じゅうぶん)に幸せだ。

魔法の手

「お母さんの手、小さくない？」

何気なく言ってお母さんと手を合わせてみる。私がまだ小さいとき、こうして過ごしたのを思い出した。少しあたたかいふわふわな手が好きだった。あの頃は、私のいくつも大きい手だったのに、今では私の手の方が少しばかり大きい。よく見ると、昔より筋張って少し荒れていて、きれいだった爪も短く切られている。女手一つで育ててくれた。頑張ったんだろうなあ。

「やめてよ、もう。きれいじゃないから。」

そう言って笑うお母さんがなんだか愛しく思えてきた。お母さんの手を触るとなんだか嬉しくなるのは今も昔も変わらない。

「私はお母さんの手、好きだけどな。」

胸があったかくなる、私限定、魔法の手。

私の父

私の父は、はっきり言ってめんどうくさい。かまってほしいのだろうが、思春期の娘（むすめ）としては、めんどうくさいの一言につきる。

「パパのどこがよくて結婚（けっこん）したの。」私は母に聞いた。「パパは人としていい人だよ。最後までやりとげる。」「そうかなあ。」

ある日、私は父と市電をおりた。すると、一人の中国人が路線図を見て困っていた。「先に行ってて。」私の父は、その人にしゃべりかけた。どうやらその人は反対の市電に乗らなければいけなかったようだ。その人は無事、父の案内で反対の市電に乗ることができた。ああ、そうか。母が言っていたのはこのことか。

私の父はめんどうくさい。しかし、そんな父が、私は好きだ。

母は短気

僕の母親は短気だ。すぐにおこって、ああだこうだ言ってくる。

「一言目ぐらい優しく言ってよ。」

そう言うと、母は少しおこった顔で、

「一言目から本気で言わないとあなたに伝わらないでしょ。」

確かにそうだ。僕は納得してしまった。

「宿題終わったの。」

優しく言われても僕は無視。

「洗たく物を持っていって。」

そう言われても無視。でも、母が短気なことに感謝している。言い合いになるけれど、母と話すことができるから。

努力の証（あかし）

生まれつき。これは産まれたときから体にあるあざのようなものだ。私は首の右側に生まれつきの赤いあざがある。痛みはないが、年頃（としごろ）の女子としてはあまり嬉（うれ）しいものではなかった。小さい時から髪（かみ）を伸（の）ばすなどして一生懸命隠（いっしょうけんめいかく）していた。そんな私を見て、母は一体どんな気持ちでいたのだろう。そんなとき、母がとうとつに話してくれた。

「京花を産むときは本当に大変でね。首が引っかかって危なかったの。その時にできたあざ、嫌（いや）かもしれないけど、でもそれはあなたが必死に生きようともがいた努力の証なんだよ。」

と。〝努力の証〟。初めて自分の生まれつきがほこらしく思えた。

そして、もう一つ。私の生きる力を支えてくれた母に心からありがとうを伝えたい。

母のメモ帳

「遊んでばかりいないで、勉強しなさい。」私はこの言葉を言われたことがない。私の兄や友達は「毎日のように言われる。」と言っているけれど私はない。勉強がめんどうくさくてテレビを見たりマンガを読んだりしていても何も言われない。思ったような結果が出なかったテストや模試を見せても怒られたことがない。だから、母は私には興味がないんだと思っていた。母は仕事や家事で忙しいから仕方ない、と自分なりに納得したものの胸が痛かった。そんなとき、私は母のメモ帳を見つけた。夕食の献立などいろいろなことが書かれている中で、「愛美がテストの結果に落ちこんでいた。あんなに勉強していたのに。私は、どんな言葉をかけたらいいんだろう。元気が出る言葉は何だろう。」

私の目から涙があふれ出した。

「思いをつなげる」言の葉

―親から子へ―

塩辛（から）い唐揚（からあ）げ

失敗した……。

なんと塩っ辛い唐揚げ……。

「ええ！唐揚げ楽しみにしていたのになあ……。」みたいな言葉が返ってくるんだろうなあと思いながら謝（あやま）る私に、食い気味であなたは言った。

「お母さん、食事は五感を使うんだよ。そのうちたったひとつの〝味〟に問題があっても全然大丈夫（だいじょうぶ）だよ。それに塩辛いとご飯が進むからたくさん食べて成長できるしねっ！」

気遣（きづか）いを感じさせる隙（すき）もないほど、あたたかくてやわらかな笑顔に心がほどける。

あなたは失敗を責めないし、もっと良くなることを求めたりもしない。あなたの透明なあふれる愛に感服（かんぷく）です。

私の子どもとして産まれて来てくれて本当にありがとう。

夢に向かって

「将来は、両親と同じ職場で働きたいです。」

と、小学校の卒業式で言ってくれたね。うれしかったです。

学童保育、病児保育等、小さい頃から寂しい思いをさせてきました。「ごめんね。」と思う反面、大きくなったら、仕事をすることの大切さや、仕事をすることが自己実現につながるということを理解してくれると信じていました。

あなたも、自分の夢に向かって、日々、努力を惜しまないでください。あなたの目標になれるよう、私たちも努力します。

いつも応援しているからね。

留学で飛び立った娘（むすめ）へ

「行ってきまあす！」と、弾（はじ）けるような笑顔で手を振（ふ）ったあなたを乗せて、飛行機は青空の中に吸い込まれるように、南の国へ飛び立って行きました。

それを見送ったお母さんは、寂（さび）しく感じたと思うでしょう？

ところが全く逆！あなたの興奮がお母さんにもうつって、ワクワクしていました。これからあなたを待ち受ける未来では、いろいろな出来事や、たくさんの出会いがあることでしょう。あなたの瞳（ひとみ）と心を通して、お母さんも一緒（いっしょ）に体験しているような気分になって、眩（まぶ）しく広がる青空をいつまでも見上げていました。

行ってらっしゃい！何倍もの笑顔で帰国する日が楽しみです。

うざいくらいに

あなたが使う「うざい」という言葉、
正解かもしれません。
なぜなら、
私たち親は、あなたが考えているより、
ずうっと先の未来まで、
うざいくらいに
あなたの幸せを願っているのだから……。

帰り道

避難指示が出た豪雨の日。

「お母さんです。仕事終わったよ。急いで帰るね。」

子に早口で電話する。

「お母さん、安全運転だよ。」

耳に流れ込んできた子の言葉。

心の奥へ奥へと沁み渡る。

「ありがとう。ゆっくり、気をつけて帰るね。」

さすがに　もう……

あなたが小さいとき、コインを入れて動く乗り物から降りるとき、
「ママ、チューしよう。」って言ってきた。
「どうして？」って聞くと、
「チューしておりてねってのりものがいったから。」と……。
〝注意しておりてね〟ってことが〝チューしておりてね〟って
聞こえたんだね。
大笑いしてからチューしたよね。
そんなあなたも、もう十五歳。
さすがにもうチューはできないね。

変わらないもの

四十九センチで生まれてきたあなたが
私を見おろせるくらいに大きくなった
子育てを始めて十五年経った今

固く閉まった瓶の蓋を開けてくれる
棚の上の届かないダンボールを下ろしてくれる
重たい買い物袋を持ってくれる
うたた寝をする私に毛布を掛けてくれる

あなたにできることがひとつひとつ増えていき
私があなたにしてあげられることがひとつひとつ減っていく

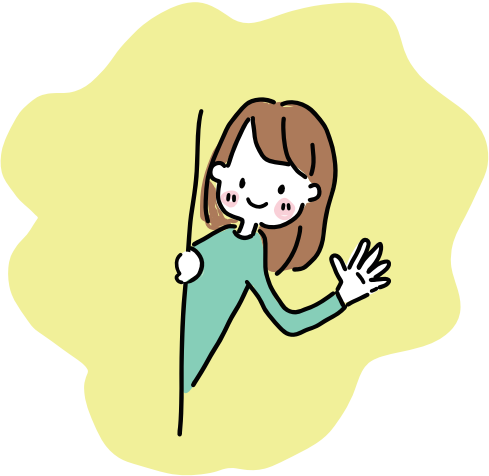
ずっと変わらないもの
それはあなたを想う気持ちだけ

反抗期感謝

この子にはないだろう。そう思っていた反抗期！しっかりきましたね。
突然、笑い。突然、怒り。突然、落ち込む。かなり忙しい反抗期。
あなたの心も自分自身についていけず苦しんでると気付きました。
叱られてもただただ、何も言わずに泣く子だったあなた。ずっと素直でいい子すぎるあなた。
反抗期初期、家出をすると口では言えずに置き手紙をおいて行ったあなたを探し掴まえました。
顔を真っ赤にして涙を流しながら叫ぶように私にぶつけてきた言葉。二人で、怒鳴りあったね。
初めてでしたね。やっと言い返してくれましたね。待ってましたよ。腹が立つより嬉し涙が止まらない私でした。あの日を忘れません。あの日のあなたの顔を忘れません。
私思いの優しいあなた。あの日ぶつけてきた言葉きっと後悔したでしょ？いつも反抗した後、後悔してるでしょ？大丈夫だよ。私はあなたを受け止めるから。あなたは、今まで私を受け止めてくれてたでしょ。反抗期は難しいけど、あなたの成長を感じます。幸せですよ。とことん反抗期やり合いましょう。反抗期バンザイ！　反抗期ありがとう！

やっぱり、まだかわいい

「お母さん！お母さん！」
何かあると、色々話をしてくれたあの頃がうそのように、
「何？」、「だから？」
そっけない返事が多くなったこの頃……。
でも、玄関先で「行ってきます。」と言ったあと、
私が顔を出し、
「行ってらっしゃい。」を言うまで
出かけないところは、
まだまだかわいいです。



背中

反抗期の娘が言う。
「私、絶対ママみたいにはならない。」
子育てって難しい。
そんなある日、娘と出掛けた温泉の脱衣所で、ぬれた身体を拭くことなく途方に暮れる高齢のおばあさんが目に入った。みな心配そうに様子を見ている。
「風邪をひきますよ？　お着替えお手伝いしましょうか？」
付き添いがいないと判断した私は、おばあさんの身体を拭きながら声を掛けた。
「もう一人で温泉に入ることもできなくなったみたいです……。」
涙ぐみ手を合わせるおばあさんと私の様子を見て、娘もすぐやってきた。
「私も手伝います！」
何度も何度も手を振って、ゆっくりゆっくり歩いて帰っていくおばあさんの背中を見送りながら、娘がぽつりと一言、
「私、ママを尊敬する……。」
そっか、子育てはこれでいいのか……。
悩み迷いながら進む親の道。ああしとけば、こうしとけば……。後悔も多いけれど、いつだってあなたが健康に何事もなく、真っすぐ育てと願っています。

親の本心

反抗期

自我の目覚めと

成長の証

と思って接することができたら、どんなに楽か……。

「思いを交える」言の葉

―子から親へ―

父の背中

私は父を踏みつける。
肩やら腰やら踏みつける。
グッ、グッ、グッと踏みつける。
父の背中は鎧のようにガチガチだ。
最後は湿布。
御神札のように背中へと
ペタリ、ペタ、ペタ貼りつける。
湿布の匂いがツンとする。
父よ、頑張れ。
肩こり、腰痛、消えますように。
イタイノ、イタイノ、トンデイケ！

たくさん時間がかかった

生まれてくるときも
たくさん時間がかかった
保育園についてお母さんと離れるのも、
たくさん時間がかかった
宿題でさえも
たくさん時間がかかった
片付けなんて終わったことがあったかな
私が時間をかけるほど
お母さんはたくさん応援してくれる
これからも　ありがとう

いつもの曲がり角

私は、学校に行くとき小さな曲がり角を通ります。その曲がり角は母と心の言葉をつなぐ場所なのです。私はその曲がり角で手をふることにしています。たまには大きくふったり、母とけんかをしたら小さくふったり、時には何もしないときだってあります。母は、その手のふり方に気付いているかも知れない。だから私はニコニコ笑顔で大きくふるようにしよう。

いってきます。大好きだよ。

私と母

「お母さん、寂しくないですか。私は、ほんの少し……寂しいですよ。」

今も小学校の頃よくケンカしたことを覚えています。あのときの小さな私は、自分のやりたいことを優先させてしまい、よく貴方を怒らせてしまいました。私は、そんな貴方が大っ嫌いでした。

中学校に入ってからは、そんなこともなくなって、同時に会話もなくなってしまって、お互いの距離がとても遠くなってしまった気がします。親子なのに、ずっと一緒にいたはずなのに、この距離の縮め方を私は知りません。今、私は、そんな私が大っ嫌いです。

「お母さん、私のことどう思っていますか。」

とりあえず、貴方の背中にアタックしてみようと思います。避けずに、受け止めてください。

言葉の力

「どうにかなる。」

母が私に向けてよく言ってくれる言葉だ。テストの結果が悪くて、落ち込んでいたら、「どうにかなるよ。」と言われた。私は、最初言われたとき、無責任だと思い腹がたった。でも、それは私の性格を一番よく知っていて言ってくれる言葉だった。今は、この言葉を聞いて、もっと気楽にマイペースでいいんだと思っている。最近、この言葉に甘えすぎている自分がいるが、毎日にゆとりを与えてくれた母にいつも感謝している。「ありがとう」たった五文字を恥ずかしくて言えないときがあるが、私が母にもらった感謝をこれからは、ゆっくりでもいいからたくさん返していきたいと思う。いつもありがとう。

みそ汁

「できた！」

誰もいないリビングで私はさけんだ。お母さんが入院して一か月。私はみそ汁が得意料理になった。

そして一人で食事を済ませて、一人で食器を洗って。お父さんとお兄ちゃんの帰りが遅いときは、いつもこのルーティン。でも、そろそろ慣れたと思ったら急に寂しくなったり……。私は家族の温かさを重く実感した。

そのとき、着信音が鳴った。発信元はお母さん。「上手にみそ汁作ってくれたね。ありがとう。」私の心に深く届いた。内心、とてもうれしかったが、「全然、そんなことないよ。」と、自慢げに言った。

今では、お母さんは退院して、私はみそ汁をあまり作らなくなったが、たまには作って喜ばせたい。

言えない言葉

私が一番言えない言葉。それは、「ありがとう。」の簡単な言葉。友達にはすぐに言えるのに、親にだけは言えない言葉。毎日怒られるくらいにたくさん話して、笑って、泣いているのに「ありがとう。」は言えない。何度助けてもらって、手伝ってもらえたのか多すぎて分からない。今まであまり伝えなかった感謝の気持ち。お母さんを泣かせるくらい伝えたいこと。言の葉にのせて、今、大声で叫びたい。

「お母さん。ありがとう。」

わがまま

私は怒っています。お母さんいつも授業参観に遅れてくるじゃん。「なんで遅れてくるの。」って聞いたら、「忙しいのよ。」と逆に怒ったよね。そのとき私は、「なんで私が怒られないといけないの。」って、思った。でも、本当は分かってる。忙しいのは私たちが生活していくために仕事をしているから。本当は怒ってない。さびしいだけなの。ああいう言い方しかできなくてごめんなさい。でも、七夕で短冊に書くのも、サンタさんにおねがいするのも恥ずかしいじゃん。誕生日ならなおさらね。卒業式は最初から最後までいてほしいな。わがまま言ってごめんね。いつもありがとう。

父との時間

私には楽しみな時間があります。それは塾の帰りです。十時過ぎに終わるため、母は弟の面倒をみなければいけないのでいつも父が来ます。

父はいつも夜遅くに帰ってくるため、しっかりと話したことは一度もなかったのでとても新鮮でした。たまにアイスを買って食べたり、今日どんなことをしたとか、母への不満を言ったり、大好きなアニメについて語ったりと、私はとても楽しいです。父との思い出も少なかったので家に帰り着くまでの短い時間ですが、これからも小さな思い出を増やしていきたいです。

最近は受験のことについて少しイラッとくるところはありますが、今までなかなか話せなかった分、いろんなことを喋りたいです。

産んでくれて、ありがとう

「お母さんは私のことがすきじゃない。」そう思っていたときがありました。「早く起きなさい。」、「お風呂入りなさい。」、「勉強しなさい。」と毎日のように怒っている母に、私もイライラしていました。そんな母は小学一年生の妹に対してはとても甘く、こんな私を育てるのは嫌なのではないかとさえ思いました。そんなことを考えていたある日、家庭科の宿題で母子手帳を見る機会がありました。そこには、「最近あまり眠れなくて大変。でも全然辛くはない。この子の成長が楽しみだ。」と書いてありました。いつも私を叱る母。それは、愛してくれている証拠なのだと思います。

毎年、誕生日を笑顔で祝ってくれてありがとう。私は、お母さんの娘に生まれて本当に幸せです。

一日一家事

私の家では「一日一家事」というルールがある。母が楽になるように一人一日一つは家事を手伝おうという決まりだ。さぼってしまうときもあるけど、母からの「ありがとう。」の言葉がききたくて、一日に何回もするときもある。もしかしたら、やるのが下手で逆に足手まといになっているかもしれない。だけど、もっとやって、どんどん上手になって、母が何もしなくていいくらいになりたい。これからもこのルールは母の笑顔を見るためにずっと続けていきたい。

母の愛情

ぼくの母は最近ガンで手術をした。二週間程で退院できたが、いつもきつそうでいる。でも、ぼくのわがままを優しく聞いてくれる。たまにおこられてイラッとしてしまうことがあるが、それもまた、母の愛情だと思う。いつも寝る前、「おやすみ。」と言ってぼくの手をにぎってくれる。そのとき母の手の太陽のようなぬくもりを感じ、いつも今日一日も無事に過ごせた、という気持ちになって落ち着くことができる。いつもぼくは母に力をもらっている。ぼくも母に愛情をそそいでいる。去年の卒業式の後、母に手紙を渡した。母はそれを、まだ机の上にかざってくれている。

ずっとこれからも、ぼくの太陽のような母といっしょにたくさんの幸せと思い出をつくっていきたい。

いつもありがとう

お母さんは涙もろい。テレビや本を読んでいるときも
「感動したあ。」
と言って泣いていた。でも、私が悩んでいるときやつらいことがあったときは、いつもなら一番に泣く母が、泣かずに真剣な顔をして話を聞いてくれる。そして必ず、
「お母さんは、ずっと味方だからね。」
と言って優しく頭をなでてくれる。私は、そんな母に何度も助けられてきた。だから今度は、私が母の力になりたいと思った。

「思いを重ねる」言の葉

―親から子へ―

いつしかあなたに支えられていた私

私が仕事復帰したのは、あなたが小学校一年生のときでした。夜勤へ行く私に、目に涙をためながら、「お仕事がんばってね。」と、妹と大きく手を振って、私を送り出してくれていたあなた。夜勤の夜は、寂しがっている妹に、「大丈夫。明日の朝には帰ってくるからね。」と声を掛け、寝るときは私のパジャマを握って枕を濡らしながら寝ていたことをパパから聞いたのは、つい最近。決して「行かないで。」とは言わずに我慢していたあなたはもう中学校一年生。

そんなあなたが看護体験に参加したいと言い出したときは驚きました。なぜなら私はあなたに、さみしい思いをさせていたと思っていたから……。あなたの支えがあって今まで続けられてこられたこの仕事。ありがとう。

あなたは私の理解者であり、私はあなたの一番の理解者です。

「行ってらっしゃい」のお守り

「行ってらっしゃい。」

元気に行っておいで。頑張れ。負けるな。今日も無事に帰ってきますように。

沢山の想いを込めて、出掛けるあなたへ声を掛ける。これは、お母さんからの言葉のお守り。

「行ってきます。」

元気な声、不機嫌そうな声、眠そうな声……。そのときの気分で声の様子は違うけど、あなたは必ず返してくれる。

ありがとう。受け取ったよ。あなたからのお守り。

今日も一日元気に過ごして、あなたを出迎えよう。

「おかえりなさい。」

「微妙な距離でまた歩こう」

久しぶりに二人で買い物に行ったね。買い物中は、あなたの少し後ろをついて行くだけ。

正直、並んで歩くのは、こっちが恥ずかしい。昔は、どっちがいいか、これはどうかとよく聞かれたけれど。

今は、迷いながらも自分で決めている。些細なことだけど、そんなあなたの姿に成長を感じる。そして会計のとき、ちらっとこちらを見る。

はいはい、払いますよ。

いつまで二人で出掛けてくれるかなあ。

そう思うと、財布のひもも頬もゆるんでしまう。

娘に弱い父ちゃんの典型だね。

これからもっともっといろんな壁にぶつかるだろうけれど、自分の信じた道を突き進んでみて。

いつまでも、あなたの応援団長でいるからさ。

頼もしいあなたへ

まだまだ小さいと思っていたあなたが、ふと大きく見える瞬間。

私が迷っていると、しっかりした意見を言ってくれること。

私が間違ったことをすると、はっきりと正してくれること。

私が落ち込んでいると、さりげなく元気づけてくれること。

十三年間で頼もしくなったあなた。

あなたの母として成長を見守ることができてとても幸せです。

これからもあなたの成長をだれよりも願っています。

あいだの時間

子供だなあと思ったり、
大人になったなあと思ったり。
どっちにもなれる貴重な時間。
後悔しないよう大事にしてね。

ちょっと前まで

ちょっと前まで一番に話してくれたのに、
近頃はじいちゃんが一番。
学校のこと、テストのこと、部活のこと。
母さんに話す前にじいちゃんに話している。
母さんに話してくれないこともじいちゃんには話している。
ちょっと前までは何でも話してくれていたのに。
「中学生の男子って家では何にも言わないですよ。」
今まで他の人に自分で言っていたくせに、母さんに話してくれないことがちょっと寂しい。
それが君の成長だってわかっていても。

ありがとう

息子へ

パパが天国に行ってから十年がたちますね。

十年前、私は絶望の中にいました。

毎日毎日泣いている私に、

「パパはいるよ。いつも見ているよ。だから大丈夫！」

と言ってくれた……。

その言葉に支えられ今まで生きてこられました。

泣き虫でおっちょこちょいの母だけどこれからもよろしくお願いします。

そしていつもはげましてくれて〝ありがとう。〟

母より

生まれてきてくれてありがとう

「ボク、お空からお兄ちゃんのことみてたよ。だから会いに来たんだ。」

君がようやくしゃべれるようになった頃、そう話してくれたね。君は「そんなこと覚えてない。」って言うけれど。障がいを抱える兄を本当に大切にしてくれているね。二人で仲よく笑い合っている姿を見ているときが一番嬉しい瞬間。そして、その言葉を思い出す瞬間。たくさん我慢することもあっただろうに。いつも笑顔の君にどれだけ救われたか。感謝の気持ちでいっぱい。生まれてきてくれてありがとう。母さんはいつもあなたの味方！

優しいあなたへ

あなたのことがかわいくてたまらないじいちゃんとばあちゃんは、九十歳と八十六歳になり、いろんなことをすぐ忘れるようになりました。

遊びに行くと、「もう何年生ね。」、「夏休みはいつまでね。」と繰り返し、繰り返し、あなたに尋ねます。

あなたは、「中学二年生。」、「今年は、九月一日までだよ。」とにこにこしながら何度でも答えてくれます。

ありがとうね。お母さんは、とっても嬉しいです。そして、そんなあなたを誇らしく思います。

いつもじいちゃんとばあちゃんに優しく接してくれるあなたのことが大好きです。

おはよ

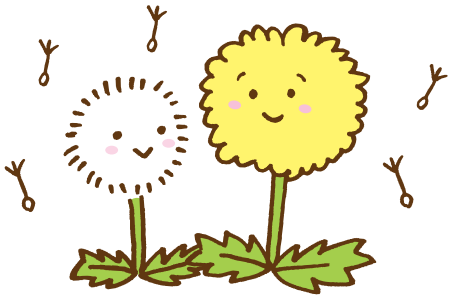
言ってしまったあの言葉
言わなきゃよかったあの言葉

悶々、悶々……　眠れぬ夜も
朝の「おはよ。」で救われる

子へ

成長

ケンカして
押(お)し返された
あなたの手
強い力に
はっとする



令和元年度「こころの言の葉」コンクール入賞者一覧

応募総数　16,533 点（中学生 14,741 点　親 1,792 点）

賞	中学生の部
大　賞	酒　匂　埜　織
準大賞	雪　丸　藍　琉
準大賞	生　田　怜　那
優秀賞	窪　下　知　花
優秀賞	相　本　悠　斗
優秀賞	内　野　音　々
優秀賞	奥ノ薗　愛　美
優秀賞	深　江　稜　奈
優秀賞	小宮路　香　花
優秀賞	住　吉　美　茜
入　選	仮　屋　奈々花
入　選	臼　井　菜々美
入　選	森　　愛菓音
入　選	米　森　明　夢
入　選	今　村　　結
入　選	遠　藤　果　歩
入　選	山　本　那　央
入　選	田　中　日　菜
入　選	永　田　姫　夏
入　選	横　道　胡　羽
入　選	西　岡　ひよな
入　選	川　島　由　奈
入　選	芹ヶ野　由　夏

賞	親の部
大　賞	川　島　由希子
準大賞	髙　山　美由紀
準大賞	松　隈　基　子
優秀賞	日　髙　美　保
優秀賞	川　畑　友　美
優秀賞	中　馬　高　志
優秀賞	中　村　弘　彦
優秀賞	尾　上　智　恵
優秀賞	北　本　美　穂
優秀賞	濵　田　康　子
優秀賞	髙　﨑　菜穂美
入　選	松　窪　真由美
入　選	福　﨑　志　保
入　選	徳　滿　千　鶴
入　選	山　元　栄　作
入　選	原　田　真　琴
入　選	神　野　容　子
入　選	新　村　文　子
入　選	飯　伏　理　恵
入　選	長　野　美　佳
入　選	元　滿　久美子
入　選	松　下　真木子

団体特別賞	星峯中学校

令和元年度「こころの言の葉」コンクール　表彰式

～令和元年 10 月 19 日（土）　市民文化ホール　第 2 ホール～

教育長から受賞者の皆さんへ

鹿児島玉龍高校放送部の
生徒による作品朗読

審査委員講評

受賞者インタビュー

審査委員講評

審査委員長　上谷　順三郎　先生

「こころの言の葉」コンクールは今回で十七回目を迎えました。第一回の中学生が親となっていて、もしかしたら親として書いているかもしれません。自分が子供の頃に書いた時と親になって書いた時とを比べてみると一体どんな気持ちがするものなのでしょう。そういう方がいらっしゃったらぜひお聞きしたいところです。

このような、子供の頃に本コンクールで手紙を書いた世代が、今度は親となって投稿してくることになります。どんな交流が行われるのか、これからのコンクールがますます楽しみです。

またもう一つ数字のことで言いますと、この十七年間で親と子が毎年平均して一万七千点の手紙を書いています。合計すると約二十九万点。もう少しで鹿児島市の人口の半分に達します。

本コンクールの手紙は、このように、こんなにも長く、そして多くの人々に書き継がれているものです。親子のコミュニケーションの場としてはもちろんのこと、ふだんは意識されにくい、同じ鹿児島市民としてのコミュニティの感覚が、本コンクールによって形造られているということも言えるのではないでしょうか。

こういった歴史に連なっているのがこのコンクールです。今回手紙を書いた親子の皆さんには、ぜひ来年も書いていただきたいと思います。

鹿児島大学教育学部長

西　ゆう子　先生

今年初めて審査委員として、思いの詰まった作品を読ませていただき、心が温かくなりました。互いの存在の大切さや日頃面と向かって言えない思いを綴った作品、反抗も健全な親子関係と受け止め、向き合う作品等から、家族の日常の一コマが見えてくるようでした。このメッセージを受け取った後のドラマの展開を想像するのも楽しかったです。

また、親は子を守っているつもりが、守られているな、親は子を育てているつもりが、育てられているなと気付かされた親御さんの驚きや子供の成長の喜びを、読み手の私もともに感じたひとときでもありました。

私が印象に残った「言の葉」を紹介します。

一つは「もっと語りたい思い」から「今度一緒にご飯でも作りませんか。」と父をさりげなく誘う娘の言の葉です。これが父娘の距離をぐっと縮めるきっかけとなったのでは。

もう一つは友達関係の悩みを打ち明けたとき、母の「（私が）気付けず、何もしてやれずごめん。」という「Ｉ（アイ）メッセージ」の言の葉です。（相手の事には触れていません。）母の涙とぬくもりを忘れられないと「言の葉」にした子供も素敵です。これが壁を乗り越えようとする勇気となり、親子の絆をさらに深めたのでは。私は、たくさんの作品から、「勇気と励まし」をもらいました。この「こころの言の葉作品集」が広く読まれ、沢山の方々の心に届きますようにと祈ります。感謝の心とともに……。

市教育委員会スクールカウンセラー

遠藤　陽子　先生

今年も多様な家族の姿に出会い、温かい気持ちに包まれました。毎年、各家庭の日常を垣間見るような、この「こころの言の葉コンクール」は、忙しい日々を送る中で忘れがちな家族の絆を思い出させてくれます。

決して特別な何かがあるわけではありません。昨日と変わらぬ今日を過ごしていても、確実に成長している我が子。思春期が成長の証と分かっていても、自身の気持ちが追い付かず戸惑う親の姿があると同時に、子供の変化を受け入れようとする覚悟も感じました。母親はそんな子供たちの心の機微に触れようと努める一方、父親からの言葉には、人生を歩む上での教訓とも言えるエールが多く綴られていたように思います。また今回は、親子のやり取りだけでなく、兄弟姉妹へ向けた言葉もあり、より一層家族の絆を感じさせられました。

そして、思うように素直になれない子供たち。本当はありがとうと伝えたいのに、言葉に出来ない歯がゆさが、文面に溢れていました。親への反発の言葉が並ぶ文面もいくつかありましたが、素直に思いを吐露出来る環境はむしろ良好な親子関係を築いている証なのかもしれません。

この「こころの言の葉」は、文章の優劣ではなく、相手のことを深く考え文字にする時間にこそ意義があり、尊いものだと思います。今後も多くの方に御参加いただき、親子の形を再認識するキッカケにしていただけたら幸いです。

フリーアナウンサー

隈元　浩二郎　先生

親子として共に過ごす時間とは過ぎ去ってみれば、実に刹那の時間だと分かります。しかしながら、親子相互が当事者として共に過ごしている時は、波風も立ち、衝突することも頻繁です。これが他人であると、たちまちに決裂してしまうのでしょうが、親子ならば次の瞬間には何事もなかったかのように、笑顔を浮かべ、楽しい時間を共有したり、相手のためにあれこれと思いを巡らせ、最大限の気配りをしたりしています。

この親子や家族にしか真似のできない慮る（おもんばかる）遣り取りが、今回の作品の随所に見て取れました。喧嘩をしたり、言い争いをしたりしても、互いの思いやる気持ちは繋がっているのだと感じさせる作品がいくつも見受けられました。

このような気配りや思いやりは、大人である親こその特権のように思われがちですが、子供も子供なりに、最大限の配慮を巡らせ、心の底から発する謝罪の気持ちや親の期待に応えようとする決意の言葉が記されていました。

今回の作品からは、親子の「互いを慮る思い」に差異などないのだということを、再確認させていただきました。冒頭でも述べましたが、親子が共に過ごす時間は無限に広がるように感じますが、あっという間に過ぎ去ってしまいます。ぜひこの機会に親子一緒に読まれ、互いを慮る思いに触れるとともに、悠久の幸せを実感していただければ幸いです。

元中学校校長

南　香織　先生

はじめに、第十七回「こころの言の葉」コンクール審査にあたり、御応募いただいた全ての方に感謝申し上げます。一つ一つの作品にそれぞれの「思い」が込められておりました。親という立場から、子供の立場から、特別ではない、あたりまえの日常の中で生まれるメッセージにあらためて、一瞬一瞬がかけがえのない時なのだということを感じました。

作品の背景が脳裏に浮かび目頭が熱くなり、また心が温かくなる時間をいただきました。

今回の作品は、親の目線が子供と同じ高さにあるような印象を受けるものが多かったように感じます。そこには、今、家庭教育や学校教育でも言われております、個々を尊重したその子に合わせた子育てがあるのではないのでしょうか。

また、子供たちからのメッセージの中にも、自分の思いの中にも、親を気遣う思いやりの姿がたくさん見られました。日々の生活の中の限られた時間の中で、子供たちと親が「確かな絆」を育んでいる、そう実感できる作品でした。

「こころの言の葉」作品集を御覧になられる子育て世代の皆さまが、ふっと肩の力をぬき、御自身の子育ての活力になるような作品集だと思っております。作品を御覧になり、子供さんと語る時間をおもちになられてみてはいかがでしょうか。

「今しかできない子育てを」共に学び・悩みながら、同世代の子供をもつ親として、一緒に楽しみましょう！

市ＰＴＡ連合会会長

編集後記

関係の皆様の御尽力により、「こころの言の葉」コンクール作品集第十七集が完成しました。一万六千点を超える応募数は、各中学校での取組の成果と感謝申し上げます。親の部の応募も千点を超えております。これは、所期の目的である「中学生とその親の心の交流」を果たす意味でも、大きな成果であります。

今年、元号が令和に変わりました。世の中はＡＩを代表とする、超スマート社会に変化していきます。ＳＮＳの普及により、いつでも誰かと連絡がとれます。しかし、常になんとなく孤独を感じてしまうこんな時代だからこそ、人と人がつながり合い、お互いを尊重して生きていくことが、いよいよ大切になってきます。

それは家族にとっても同じです。

子供はもちろん、母親も、父親も、お互いへの思いを伝えることは、やはり難しいものです。いつもうまく表現できない思いを、言の葉に込めて応募してくださった大勢の皆様に、心から感謝いたします。

本年度の団体特別賞は、星峯中学校が受賞しました。例年の積極的な応募を評価されての受賞です。それぞれの学校での取組が、このコンクールを支えてくださっています。

来年度も、ますます親子の心の交流が図られるよう取り組んでまいります。更に多くの素晴らしい言の葉が寄せられることを心からお待ちしています。

こころの言の葉
～第17集　大切なあなたに 伝えたい、私の思い～

令和２年１月３１日

発行　鹿児島市教育委員会
〒892－0816　鹿児島市山下町6−1
TEL（099)227－1941　FAX（099)227－3016

表紙写真　福元　徹　撮影

リサイクル適性の表示：紙へリサイクル可